

令和 7 年度の研究（または活動）内容

地域経済研究所(以下「本研究所」という)は、令和 7 年度(2025 年度)に、東北工業大学プロジェクト研究所として設立 4 年目を迎えました(2025 年度に 3 年間の継続申請済み)。本研究所の目的は、地域・地場産業振興研究拠点として、地域経済の活性化に資することと中小企業の経営支援活動と地域産業の振興にあります。本研究所のユニークな特徴としては、宮城県中小企業家同友会と密接に連携しながら、中小企業の経営実態の調査や産業振興、さらに、脱炭素経営および SDGs 経営に係る啓蒙活動にあります。

令和 7 年度(2025 年度)の活動では、本学・研究支援センター主催により、2025 年 8 月 1 日に、江陽グランドホテル 4F にて開催された、「未来のエスキースを描く。東北工業大学『東北 SDGs 研究実践拠点』産学連携交流会(研究シーズ発表会)」において、地域・地場産業振興研究拠点として、地域経済研究所長の川島和浩が「企業の社会価値を創造する SDGs 経営の研究」を発表しました。そこでは、①わが国の中小企業・小規模事業者(以下「中小企業」という)は、全企業の 99.7%を占め、雇用者数の 7 割、付加価値額の 5 割を創造していること、②付加価値額は、「従業員数」×「従業員一人当たり付加価値額(労働生産性)」で算定されるため、経済成長には労働生産性の向上が必要であること、③多くの中小企業は現在、原材料費やエネルギー費などの高騰による物価高や人件費の増大、人口減少社会における人財確保の課題に直面していること、さらには、④デジタル化への対応、脱炭素経営への取組み、SDGs 経営への取組みなど企業の社会価値を創造するための経営課題が山積みであることを指摘しました。そのうえで、地域経済研究所の活動方針としては、中小企業が、SDGs 経営の実践によって産学官金の連携を強化し、ビジネスチャンスを広げ、成長段階に応じた支援策を享受できるしくみづくりを構築していくことを掲げました。

次いで、当日の第 2 部の産学交流会において、株式会社宮城衛生環境公社からのご提案として、環境経営の観点から、太陽光パネルのリサイクル問題等に係る研究相談を受けました。

その後、数度の検討会を踏まえて、本学の地域連携センターの協力のもとで、2026 年 2 月 25 日(水)14 時～17 時に、地域連携センターの新しい「テクロビ」(仙台市青葉区中央 4-4-19 アーバンネット仙台中央ビル 5 階)において、株式会社宮城衛生環境公社を協力者として、2025 年度地域経済シンポジウム「太陽光パネルのリサイクルの課題と展望」を開催しました。会場の収容人数の関係で定員 50 名(先着順)としたところ、Forms を活用した事前の参加登録者 37 名とシンポジウム関係者、さらに報道関係者として、tbc 東北放送と日本建設新聞社が来場され、会場は満席となりました。なお、当日のシンポジウムの様子は、tbc 東北放送によって翌日の夕方にテレビ放映されました。

2025 年度地域経済シンポジウムでは、「再生可能エネルギーの主力である太陽光発電パネルについては、設置から 20 年を経過する 2030 年代には、更新や発電終了が予想され、大量の使用済みパネルが発生する可能性があります。時代がサーキュラーエコノミーを求めるなか、使用済みパネルを廃棄物に終わらせず、循環資源として利用していくために、現状を共有しながら、宮城県内の円滑な資源循環利用に向けて関係者において意識の醸成を図るとともに、地域経済における成長の好循環を目指す方向性を議論する必要があります。」という論点を議論することを目的としました。

当日のプログラムでは、最初に、現状報告として、株式会社宮城衛生環境公社代表取締役の砂金英輝氏より「当社の関わる太陽光パネルリサイクルの現状と今後」を報告してもらいました。次いで、話題提供として、早稲田大学法学部教授の大塚直氏より「太陽光パネルの再資源化とEPR」を、東京からオンラインで報告してもらいました。その後、地域経済研究所の小祝慶紀先生をファシリテーターとして、パネルディスカッションを開催しました。パネラーとしては、砂金英輝氏、大塚直氏、そして、宮城県環境生活部循環型社会推進課長の三浦敬氏に特別に参加していただき3名に担当していただき、盛況に閉会することができました。

シンポジウム終了後に回収したアンケート結果では回収率は20%でしたが、「とても満足した」が90%、「まあまあ満足した」が10%であり、好評を得たといえます。また、今後の地域経済研究所の活動に対しては、「今回のシンポジウムを開催して課題と展望がどのように変化したか、それにより今後どのような展開が期待出来るかをテーマにしたシンポジウムを期待したいです。」「太陽光パネルの処理に関して、国の政策や支援についての情報提供を、引き続き、お願いしたいです。」「宮城県でも太陽光パネルリサイクルの機運が高まる非常に有意義なシンポジウムだったと思う。埋立より手間暇や費用のかかるリサイクルの方が必要だとあらゆる階層に理解してもらえよう、今後も粘り強く発信していただきたいと思う。」という意見が寄せられたことから、次年度の検討課題としたい。



